

震災後初となる重油タンカーが入港

火力発電所向け重油の荷揚げ

12月5日、相馬港に東日本大震災後、初となる重油タンカー船が入港しました。

荷揚げされた重油は、相馬共同火力発電(株)新地発電所で使用されます。同発電所は震災により運転を停止しておりましたが、12月7日には震災後初めて2号機(100万kw)のボイラーが点火され、試験運転を経て、今月19日に発電が再開される見込みです。

○入港船

- ・船名: ARIAKEMARU
- ・重量トン数: 45, 920DWT
- ・積載貨物: 重油(28, 002KL)



▲重油の荷揚げ作業

